



西中だより

教育目標

豊かな人間性を培う
創造 自律 敬愛 健康

令和8年4月30日発行
第2号

「同じ頂上」へ——チーム西中、五月の挑戦が始まる

校長 庄司 真人

新しい学年が始まり、ひと月が過ぎようとしています。入学・進級の緊張と期待を胸に、子どもたちはそれぞれの「山」を登り始めました。険しい岩場に足をすくませた子もいれば、思いがけぬ景色に目を輝かせた子もいたことでしょう。その一步一步を、私たち教職員はそばで見守り、ともに歩んできました。保護者の皆様の温かい支えがあってこそ、この一ヶ月です。

しかし五月は、心が揺れやすい季節でもあります。ゴールデンウィークが明けると、張り詰めていた糸がふと緩み、足が重くなることがあります。「なんとなくしんどい」「理由はわからないけれど、気が向かない」——そうした小さなサインを、見逃したくない。本校では今月、GW明けの「見取り」と「傾聴」を最重点に置きます。表情・言葉・ちょっとした変化を丁寧に拾い、声にならない思いにも耳を傾けていきます。山では、早めの判断が仲間を守ります。気になることがあれば、どうかためらわずに学校へお声がけください。

4月の保護者会でお伝えした一枚の絵を、思い出していただけますか。学校・家庭・地域という三本の道が、同じ頂上をめざして伸びていく姿です。見据えるゴールはただ一つ——子どもたちの健やかな成長。その頂に立ったとき、生徒は「学べてよかった」、保護者の皆様は「関わられてよかった」、教職員は「働けてよかった」と感じられる学校。それが西中学校の、変わらぬ願いです。

頂上をめざすには、装備が要ります。家庭では、スマートフォンの使用ルールを親子で確認し合うことが、子どもたちを守る命綱になります。学校では、いじめへの毅然たる対応を徹底し、子どもの命と安全を何よりも優先します。授業では「見通し・交流・振り返り」の学びを積み重ね、間違えても笑われない、安心して考えを出せる教室をつくり続けます。そして五月は、教育活動の「見える化」をさらに進め、家庭との対話をいっそう深めてまいります。

本校の生徒の95%が友だち関係に満足し、95%が「先生は自分の良いところを認めてくれる」と答えています。これは誇るべき、西中生の確かな強みです。一方、「自分に良いところがある」と感じている生徒は64%——まだ三人に一人が、自分の価値を信じ切れていない。この数字が、私たちへの宿題です。「やってみよう！」と挑戦できる子を増やすこと。「つながろう！」と仲間と学び合える場をつくること。「ありがとう！」と感謝が飛び交う学校を育てること。この三つの歯車が力強く噛み合ったとき、子どもたちの自信は必ず輝き始めます。

前向きな挑戦には、失敗がつきものです。それでも、失敗を恐れて立ち止まるより、転んでも立ち上がる強さを育てたい。子どもたちが「やってみよう」と踏み出せるよう、私たち教職員が全力で支えます。そして、保護者の皆様と手を携え、ともにこの素晴らしい山を登り続けることが、西中学校の誇りです。五月、チーム西中の新たな挑戦が、今始まります。